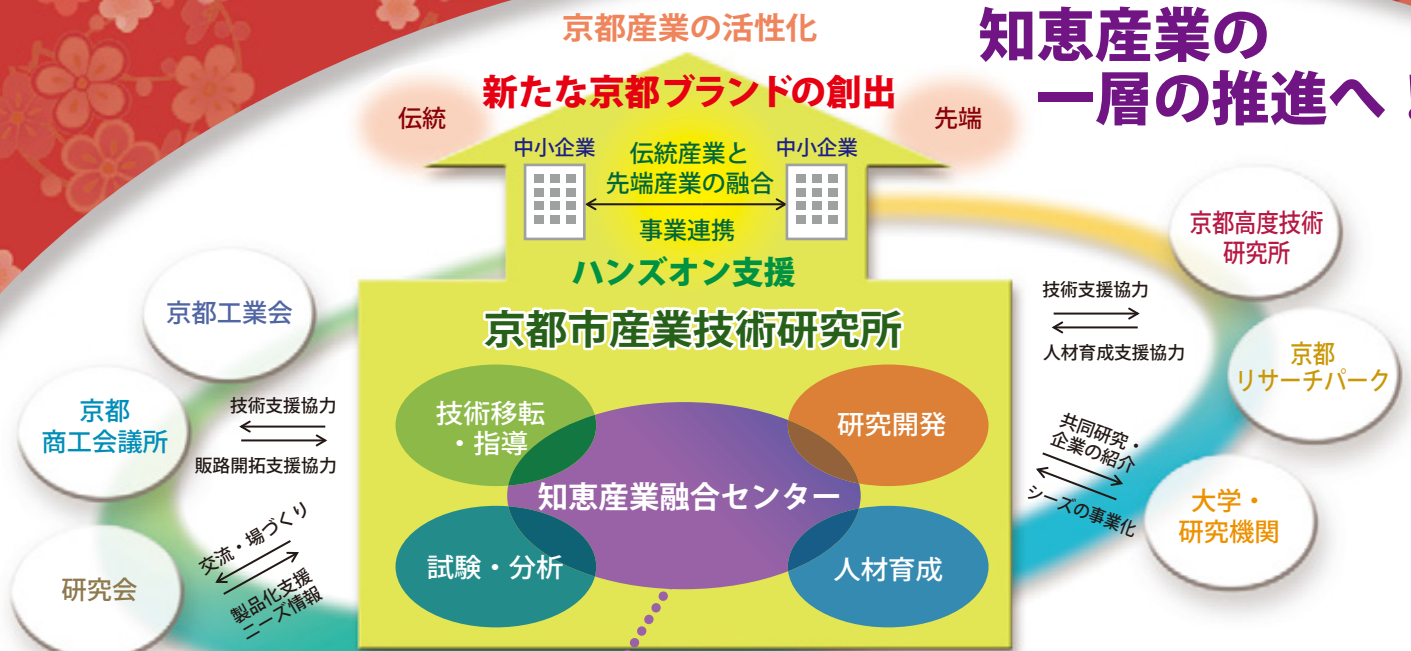


知恵産業の 一層の推進へ！



京都市産業技術研究所 知恵産業融合センターの機能

研究開発支援

- ・知恵産業推進事業 研究開発支援
- ・事業化・製品化促進 (知恵産業創造支援事業, パイロット研究等)
- ・産業技術研究所の技術力をベースにした技術的支援

人材育成

- ・グローバル・ビジネス人材の育成 「知恵産業創出リーダーシップ育成プログラム」
- ・伝統産業技術者研修, 中小企業技術者研修等の研修修了生が力を発揮できる場の開拓

企業マッチングの推進

- ・伝統産業と先端産業の融合に向けたプロデュース
- ・技術者, 経営者のための face to face の場づくり
- ・14 研究会間の交流の活発化

情報発信

- ・研究所の支援事例発表会 (目の輝き成果発表会等)
- ・各種広報活動

事業化や製品化など, 出口に近い技術支援

京都市産業技術研究所知恵産業融合センターでは, 伝統産業と先端産業を融合し, それぞれの技術を効果的に生かした新技術・新製品の開発による新たな京都ブランドの創出と, イノベーションを支える人材の育成を目指しています。

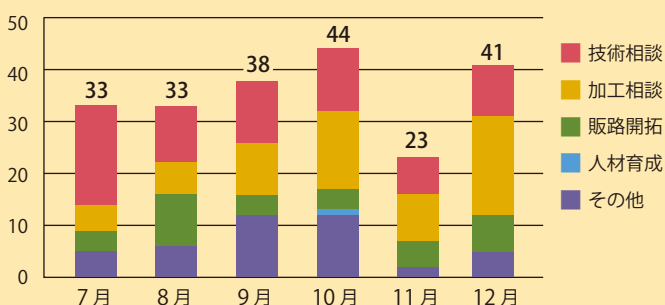
京都ならではの企業, 業界における製品を研究所から発信するため, 各関係機関との連携を強化し, より一層センター機能の拡充を図っています。また技術と産業の橋渡し役として, 知恵産業の更なる推進に向けて取り組んでいます。

企業支援

■ 様々な業種からの技術相談等に対応

知恵産業融合センターでは今年度これまでに 200 件以上のご相談に対応してきました。相談案件によっては, 当研究所の専門の研究員につなぎ, 技術支援を行っています。

件数 平成 24 年度 知恵産業融合センター相談件数 (下半期)



■ 支援事例の紹介

- 伝統産業事業者から新たな製品制作の相談 (樹脂加工会社などとマッチング)
- 金属加工を得意とする事業者から新分野への事業展開のための技術相談
- 新規製造工程開発のための加工技術企業の紹介
- 新製品を市場に出す際の実用性能の評価支援

■ 企業情報分析システムをぜひご活用ください！

産業技術研究所 1 階の知恵袋室に, 380 社を超える市内企業の情報が検索可能な端末を設置しています。新技術・新製品開発をお考えの際には, 当システムを是非ご利用ください。ご利用の場合は 1 階受付又は, 右記までお申し出ください。(無料)



<お問合せ>
京都市産業技術研究所
知恵産業融合センター
TEL: 075-326-6220

平成 24 年度 知恵産業融合センター人材育成事業 知恵産業創出リーダーシップ育成プログラム 「知恵産業創出ビジネスモデルの提案」(中間発表)



<ビジネスモデルのテーマ>

Aチーム 『「京都知恵産業モール」の運営』

京都ブランドの価値を強みに、インターネットやスマートフォン等を活用し、伝統産品と観光等とリンクさせた新たなショッピングモールを提案

Bチーム 『日本再生 ～これからの暮らし方の提案～』

昭和初期にあったような精神的な豊かさをヒントに、これからの暮らし方を提案

Cチーム 『京都の伝統技術の装飾を施した 「がま口ソファ」』

京都の伝統産業（西陣織、京友禅、京鹿の子絞、京焼・清水焼等）に従事するメンバーが集まり、特色を生かした新商品を開発

知恵産業融合センターでは、京都市域内の伝統工芸や中小企業の活動に従事する中堅技術者・起業家等を対象に、新たな社会価値・文化価値を創出し、グローバルビジネスを展開できる人材の育成を目指した「知恵産業創出リーダーシップ育成プログラム」を昨年5月に開講しました。スーパーバイザーの指導のもと財務や経営の専門家の講演などを受け、現在、塾生が3チームに分かれて、新たなビジネスモデルの提案に向けた企画を作成中です。

昨年10月に開催した知恵産業融合センターの支援事例の紹介等を行う「目の輝き成果発表会」において、それぞれのチームがビジネスモデルの中間発表を行いました。各チームごとに、年度末の完成に向けて、実践を想定した企画案づくりを進めているところです。

知恵の最前線 レポート④

知恵産業融合センターがご支援している企業を特集。企業の技術や製品、今後の抱負などについてご紹介します。

京都市中京区 寺田薬泉工業株式会社

『高彩色赤色ベンガラの開発から 新たな価値を創造する』

所在地：[本社・工場] 京都市中京区壬生高樋町 39 TEL：075-311-7678
FAX：075-311-5499 [丹波工場] 京都府船井郡京丹波町下山わらび 55
(京都中央テクノパーク) TEL：0771-83-1480 FAX：0771-83-1482
URL：http://www.teradayakusen.co.jp
事業内容：試薬、化成品（機能的工業薬品）、無機顔料、金属酸化物の製造
販売及びそれらの受託製造、研究開発

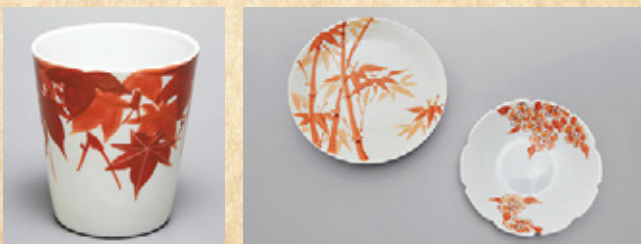


取締役・
丹波工場工場長 寺田 康恒 氏(右)
技術統括 稲垣 正爾 氏(左)

日本の伝統色が現代に蘇る ～高彩色赤色ベンガラの開発に成功～

幕末・明治時代から昭和初期にかけ、岡山県吹屋地区で生産されていた高彩色赤色ベンガラ（明るい橙色系）は酸化鉄を主成分とし、変色や退色が少なくさらに防虫効果が高いことから、京焼・清水焼などの陶磁器用赤絵具や家屋の塗料として用いられてきました。しかし、その製造過程で有害物質が発生するため、昭和40年代から製造中止になりました。そうした中、この高彩色赤色ベンガラの復活に向け、寺田薬泉工業(株)では、岡山大学大学院、京都市産業技術研究所との共同研究により、有害物質の出ない新しい製法と量産技術を開発することに成功しました。

寺田薬泉工業(株)では、湿式で鉄など原材料の一部をアルミニウムに置き換えて結合させる製法を開発。一般的なベンガラと違い焼成を行わないため、粒子が細かく鮮やかで、耐熱変色性や安全性にも優れた特性を持っています。開発陣の熱い思いが込められた伝統色の美しさがここに蘇りました。



新ベンガラを用いた陶磁器試作品

時代の流れと共にお客様のニーズに応えた製品を提供

明治43年に寺田製薬所として創業。試薬の研究開発、製造から出発し、その後時代の変化に応じて、試薬製造で培った製造技術などを基に、現在では化成品（工業薬品）や無機顔料の製造等も行っていきます。創業当初から多品種少量生産体制で、お客様の要望に合わせた品質に“カスタマイズ”し、小回りの利いた技術対応で、多様化するニーズに応えています。工場長曰く、『お客様の声を聴いたものづくり、それが製品のオリジナリティやお客様との息の長いお付き合いにつながっています。また、思わぬところでお声かけいただくこともあり、ひとつひとつのご縁を大切にしています。』と周囲の支援にも感謝を忘れないその姿勢が、確かな信頼へとつながっています。

次なるステージへ

～陶磁器以外の化粧品など新たな分野へ展開～

同社では、開発した高彩色赤色ベンガラの特徴である、有害物質を含まず低コストで製造できる利点を生かし、陶磁器以外の化粧品業界などの新たな分野への展開を目指しています。今後も時代のニーズをうまく捉えたカスタマイズ製品だけでなく、日本の暮らしを彩るベンガラを筆頭に、自社製品開発にも力を入れていくとのこと。大手企業に負けない技術を武器に、次のステージに向けた寺田薬泉工業(株)の挑戦は続きます。